

第3次千葉県青少年総合プラン 令和3年度事業評価シート

事業NO	109
------	-----

事業名	青少年相談員設置事業		
担当課・室・班名	県民生活課 子ども・若者育成支援室	問合せ先(電話番号)	2291

1 事業の概要

柱	Ⅲ	基本目標	5	基本方策	⑩多様な主体による取組の推進と連携					
事業内容	地域の青少年健全育成のリーダー的存在として、青少年健全育成活動、非行防止、安全防止活動等多岐にわたる活動を行っている青少年相談員の活動の充実及び資質や意欲の向上を図る。									
当初予算額(千円)	H30年度	25,833	R元年度	22,305	R2年度	22,395	R3年度	25,172	R4年度	21,770
決算額(千円)	H30年度	24,658	R元年度	20,809	R2年度	20,381	R3年度	21,747	R4年度	
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

青少年相談員と青少年がスポーツやレクリエーション等を行う「つどい大会」を、県内11地区でそれぞれ計画し、青少年1,794人の参加があった。また、市町村における青少年相談員活動を支援し、42,566人の青少年が地域において実施する行事等に参加した。(昨年度比10,243人減。)

青少年相談員活動への意欲や資質向上を目的とした、「課題研修会」は県内11地区ごとに計画し、437名(昨年度比393名増)の青少年相談員が参加した。委嘱2年目に行う全体会は、オンラインにより行うなど、開催方法を工夫して行った。

(2)事業の成果

県内11地区、54市町村がそれぞれ地域の実態やニーズに合った活動や、青少年を主体とした「つどい大会」の企画をした。新型コロナウイルス感染症の影響で、青少年が参加する体験活動が減少する中、交流や親睦を深めることができた。

【事業例】

- ・ポッチャ、モルック、クイズ式ウォークラリー、海岸清掃
- ・鑑賞会(夜空、ホテル)、絵葉書、フォトコンテスト、eスポーツ交流会
- ・タイムカプセル(未来への手紙、メッセージボード)
- ・オンラインによる物づくり等(凧、料理)

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

青少年人口が減少しているが、青少年の健全育成は地域にとって欠かせないものである。しかし、社会環境やライフスタイルの変化により、青少年相談員の担い手が不足している。体験活動等を通して、青少年の健全育成を担う青少年相談員の確保は喫緊の課題である。各市町村では、サポーター制度やイベント来場者への勧誘などを行っており、そうした好事例を収集し、担い手が不足している市町村に周知するなど、市町村と連携しながら青少年相談員の確保に努めていく。

新型コロナウイルス感染症拡大により、活動を制限せざるを得ない状況の中、活動の主体である各連絡協議会は、工夫した活動を行っているが、そのような活動事例が情報共有されていない。今後は、青少年相談員同士の情報共有ができるような研修を企画する。

○参考

関連指標	[青少年育成活動の推進] 青少年相談員が地域において実施する取組への青少年の参加者数					目標	増加を視野に入れ 160,000人以上
	基準年(H28)	H29	H30	R1	R2	R3	
	164,233人	165,607人	166,324人	200,858人	54,603人	44,360人	

4 委員意見

--

第3次千葉県青少年総合プラン 令和3年度事業評価シート

事業NO	114
------	-----

事業名	青少年指導者育成事業		
担当課・室・班名	県民生活課 子ども・若者育成支援室	問合せ先(電話番号)	2230

1 事業の概要

柱	Ⅲ	基本目標	5	基本方策	⑩多様な主体による取組の推進と連携					
事業内容	県内各地域で実施する青少年健全育成のスキル向上のための研修会等に対して、青少年活動に携わってきた視点でのノウハウを持った専門職員又は外部講師等をコーディネートして派遣する。									
当初予算額(千円)	H30年度	920	R元年度	937	R2年度	936	R3年度	936	R4年度	936
決算額(千円)		920		936		936		936		
財源内訳	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源	県単(○)	他財源
	○		○		○		○		○	

2 事業実績・評価等

(1)事業の実施結果

<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は、県内市町村及び青少年育成団体等が実施する、青少年指導者向けの研修会に対して、14件の講師派遣を行った。(実際は22件の依頼があったが、8件がコロナウイルス等の影響により中止となった。) 研修会等には、延べ1,134人の青少年指導者が参加した。

(2)事業の成果

<ul style="list-style-type: none"> 県域での青少年育成活動の実績を生かして、適切な講師や専門職員をコーディネートすることができた。 専門職員による研修会等は、青少年の指導者育成の一層の充実を図る機会となった。

3 事業の課題・問題点、今後の方向性等

<ul style="list-style-type: none"> 県内での活用を促進するため、市町村のほか、地域の青少年団体等に更に周知する必要がある。 引き続き研修会等へ専門の講師を派遣するとともに、市町村や地域振興事務所と連携し、事業の周知を図っていく。 コロナ禍においても、オンライン等の研修会へ講師や専門職員をコーディネートできる旨の周知の仕方について、受託団体等と連携しながら検討していく。

○参考

関連指標						目標	
	基準年	H30	R1	R2	R3	R4	

4 委員意見

--